

科 目 名		学 年	単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態	学 修 単 位
法学: Law		4SC	2	100分×30回	必修	講義・通年	○
教 員 名	山本 光英: YAMAMOTO Mitsuhide						
授 業 概 要	法学の基本的事項を理解し、現代社会の諸問題を概観するとともに、刑事裁判の基本的な諸原則を理解することを通じて、現代の司法制度を理解する。						
到達目標				評価方法			
(1)我が国の法制度を理解する。 (2)現代社会の諸問題を理解する。 (3)裁判の基本原則を理解する。				年4回の筆記試験の成績を総合評価する。			
学習・教育目標		(F)③④		JABEE基準1(1)		(a)	
授 業 計 画	回	項 目	内 容	回	項 目	内 容	
	第1	法とは何か	シラバスの説明、法規範とその他の社会規範との違い	第16	現代の犯罪(1)	電気窃盗	
	第2	法の発展	実定法と自然法、法秩序の体系	第17	現代の犯罪(2)	現代の少年犯罪①	
	第3	法と裁判	裁判制度、裁判の関与者、裁判所の種類と管轄、刑事裁判と民事裁判	第18	現代の犯罪(3)	現代の少年犯罪②	
	第4	裁判の基準	法源、制定法、慣習法、判例法、条理	第19	現代の犯罪(4)	交通事故と危険運転致死傷罪	
	第5	近代国家と憲法(1)	近代憲法の原理、明治憲法の特徴	第20	裁判員制度(1)	裁判員制度と陪審制・参審制	
	第6	近代国家と憲法(2)	現行憲法の成立と基本原則	第21	裁判員制度(2)	裁判員制度の問題点	
	第7	中間まとめ	前期の中間まとめとして試験を実施する。	第22	中間まとめ	後期の中間まとめとして試験を実施する。	
	第8	犯罪と刑罰(1)	犯罪とは何か、刑罰の種類	第23	刑事手続きの流れ(1)	刑事手続きの流れの概要	
	第9	犯罪と刑罰(2)	罪刑法定主義と派生原則	第24	刑事手続きの流れ(2)	公判(冒頭手続き、証拠調べ、判決)	
	第10	犯罪の成立要件(1)	行為と因果関係	第25	刑事手続きにおける人権保障(1)	憲法における人権保障、令状主義	
	第11	犯罪の成立要件(2)	違法性と違法性阻却事由	第26	刑事手続きにおける人権保障(2)	捜査の端緒、逮捕、勾留	
	第12	犯罪の成立要件(3)	有責性、責任能力、原因において自由な行為	第27	公判の基本原則(1)	無罪の推定、挙証責任、証明の程度	
	第13	犯罪の成立要件(4)	故意と過失	第28	公判の基本原則(2)	黙秘権と自白法則	
	第14	犯罪の成立要件(5)	既遂と未遂、その特殊事例	第29	公判の基本原則(3)	補強法則	
第15	まとめ	前期のまとめを行う。	第30	まとめ	全体の学習事項のまとめと授業評価アンケートを行う。		
自学自習の内容	六法全書に目を通すこと。						
関連科目	現代社会						
教科書	末川博編『法学入門』第5版補訂第2版(有斐閣双書)、石川明ほか『法学六法 2011年度版』(信山社)						
参考書							
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。						
副担当教員	山下 祐志						
備考							